

乳幼児観察セミナー

—その臨床的応用について—

乳幼児観察はエスター・ビックによって創案され、英国での精神分析の基礎訓練としてだけでなく、こどもやメンタルヘルスに関わる多職種の専門家の参加も多く、盛んに行われています。我が国では、主にタヴィストック・クリニックに留学した臨床家によって、乳幼児観察グループなどによって、すでに子どもに関わる専門職だけでなく、多彩な臨床家にその研修の機会を与えています。今年度は、乳幼児観察の臨床的応用として、乳幼児観察の経験によって治療者の技量への寄与、ワークディスカッションにおける討論の面白さ、さらに組織への新たな視点を提供するという、興味深いテーマについて論じるつもりです。乳幼児観察は奥深く、臨床家に多大な貢献を為すことが知られていますが、さらに乳幼児観察の重要性を再確認したいと思います。また、本セミナーは我が国で行われている乳幼児観察に関する研究会の中心となるようなフィールドとなることを目論んでいます。

目 的：本セミナーの前半では、乳幼児観察を日本で経験した講師に乳幼児観察に関する講義を行ってもらい、後半には2年間の乳幼児観察を終了した人から生き生きとした乳幼児観察の体験を語ってもらいます。

参 加 者：乳幼児観察の終了者、乳幼児観察に関心を持つ人であれば、職種は問いません。

日 時：①2022年9月19日(月、祝日) 13時～17時
②2023年2月12日(日) 13時～17時

場 所：小寺財団セミナールームおよび小会議室

Zoomによるオンライン参加も可能です。

司 会：①鈴木龍 (鈴木龍クリニック)
②脇谷順子 (杏林大学保健学部/認定NPO法人子どもの心理療法支援会)

講 師：①田中健夫 (東京女子大学 現代教養学部心理・コミュニケーション学科 教授)
乳幼児観察によって、心の中の自発的なものが呼び出されてそれに環境が応じるといってニーズが形をなしていく赤ちゃんの心的発達、母子の生き生きとした(生々しい交流)に巻き込まれながらリフレクトするという経験が治療者にもたらすものをご一緒に考えてみたいと思っています。

②松本拓真 (岐阜大学 教育学部 准教授)
乳幼児観察とその臨床的応用の可能性、特にワークディスカッションの面白さをご紹介したいと思います。また、自分自身の職場の見え方が観察的態度を通すと劇的に変化することを示してみたいと思います。

討 論 者：①木部則雄 (こども・思春期メンタルクリニック/白百合女子大学 発達心理学科)
②鈴木龍

定 員：30名

受 講 料：12000円

主 催：小寺記念精神分析研究財団

『乳幼児観察セミナー』 参加申込書

本参加申込書は、下記まで E-mail または FAX にてお送り下さい。

※Eメールの場合は、件名を『乳幼児観察セミナー』として、本文に下記必要事項をご記入下さい。なるべくメールでお申し込み下さい。

〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-4SC ビル6階
小寺記念精神分析研究財団事務局

Fax : 03-3350-9749 E-mail : kodera.kt@nifty.com

申込期間 **9月12日(月)** まで期間厳守

申込 月 日

フリガナ 氏名			(19 年生)
勤務先			
所属		職種	経験年

(どちらかを○で囲んでください)

自宅 ・ 勤務先

連絡先	〒		
自宅	電話	FAX	
どちらかに○	会場への出席	オンライン出席	
e-mail アドレス			

参加の可否については、受付後順次、申込書に記載の E メールアドレスに連絡いたします。その際振込先もご案内いたします。定員になりしだい締め切ります。

会場での参加、オンラインでの参加のご意向を上記の欄でお選び下さい。

本セミナーをどのようにして知りましたか？該当する箇所に○をお付け下さい。

郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他 ()

※記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡及びご案内のみに使用いたします。